

平成 24 年 1 月 25 日

長船町磯上油杉 調査報告書

丸谷憲二

1 はじめに

平成 24 年 1 月 9 日に中西 厚氏の紹介で安木義忠氏(長船町歴史研究会)に瀬戸内市長船町磯上油杉の坑道跡を案内していただいた。瀬戸内市長船町磯上は『和名抄』に記載されている石上郷(いそのかみごう)の比定地である。磯上に油杉集落がある。

2 油杉坑道

坑道近くより試掘した鉱石を石で割ってみた。磁石で**磁性鉱物**であることを確認した。事務用磁石がつくほど**の磁性**を持った鉱物を含む岩石であり、鉄の鉱石であることが確認された。しかし、鉱石の一部分のみの反応である。磁性鉱物の含有は部分的であり含有量は少ない。試掘のみの鉱山跡である。



磯上油杉の古道脇の坑道跡 3 箇所有り



鉱脈鉱石

3 古道の石標 右へんろ道 右片上道

牛窓から熊山に向かう古道脇に江戸時代の石標がある。右へんろ、右片上道の文字が読み取れる。右へんろ道とは「邑久郡北周り八十八箇所靈場のへんろ路の案内の石標」である。古道に残る一里塚や辻々に置かれた古い石の道しるべ（石標）は江戸時代のものである。石の面にかろうじて読み取れる「右へんろ」や「右片上道」等の文字はその昔、道中を行く旅人に限りない安堵と利便をあたえていた。



古道



右へんろ道

右片上道

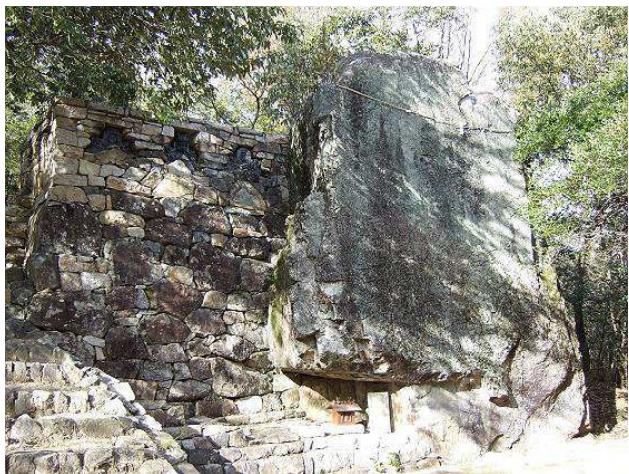
4 牛神社

古道脇に小さな古社がある。田倉牛神社（岡山県備前市吉永町）奉納の備前焼の牛神様の置物が供えてある。



5 巨大磐座「祇園石天王」社跡と日向石神社跡

磯上地区の油杉集落と山田集落の丘陵には巨大な磐座（いわくら）があり、油杉山には前方後円墳がある。奈良時代に日光寺が創建され古代から栄えた地域である。磐座の下に「祇園石天王」の扁額がある。「祇園石天王」とはこの古社名であり、祇園精舎（ぎおんしようじや）の守護神・牛頭天王（ごずてんのう）である。牛頭天王は素戔鳴尊（すさのおのみこと）の化身である。

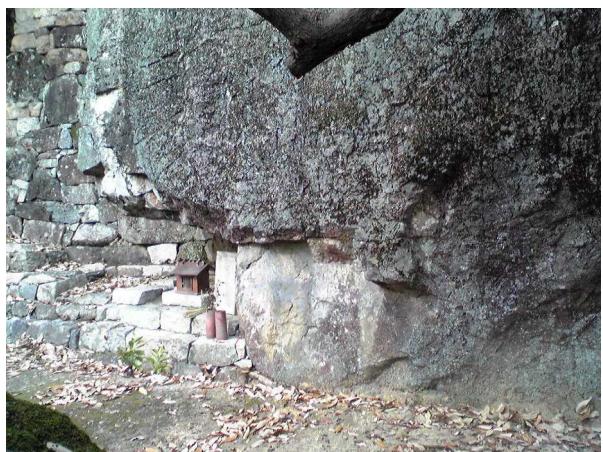


油杉の磐座



磐座の下に「祇園石天王」の扁額

この磐座とスカリ岩(長船美しい森)を結んだ延長線に湯次(ユスキ)神社が有る。



日向石神社跡

6 ストーンサークル

産土池に隣接した山田集落丘陵の巨大磐座をストーンサークルと安木義忠氏は説明される。大塚集落の近くに横穴式大塚古墳群(6世紀後半~8世紀前半)がある。



山田丘陵のストーンサークル

7 鉱石の分析

倉敷市立自然史博物館 武智泰史先生の所見

坑道近くより採掘した鉱石について調べた所、弱く磁石に付く程度のものでした。内部を割って見たところ、一つは、泥岩が熱変成してできたホルンフェルスで、磁鉄鉱は肉眼で見えるほど含まれていませんでした。もうひとつは、ホルンフェルス中に閃亜鉛鉱、方鉛鉱、黄鉄鉱、黄銅鉱、微量の磁硫鐵鉱、磁鉄鉱が見られ、磁性は微量の磁硫鐵鉱、磁鉄鉱によるものと思われます。この鉱石は明らかに銅・鉛・亜鉛鉱石で、鉄鉱石より鉄含有率が低く、硫黄分が非常に多く（硫黄は少量でも鉄精錬の妨げになる）、古代で鉄鉱石として用いることができるほどのものではないと思います。したがって、長船町磯上油杉の坑道は、銅・鉛・亜鉛を目的に採掘した跡であると思います。

8 まとめ

- ① 長船町磯上油杉は、弓月→湯次→油杉の転訛であろう。湯次神社祭神の「湯次神」とは「弓月神」の意であろう。秦氏の祖神である。
- ② 現在の地名表記は磯上である。しかし、巨大磐座の存在から『和名抄』の石上郷（いそのかみごう）の石上が正しいと考える。
- ③ 熊山遺跡の石積遺構は大きな岩を割っている。大きな岩を何のために割るのかが解明されていない。私に「大きな岩を鉄鉱石等の鉱物を探すために割った残骸」との仮説がある。今回の磁性鉱物の発見は仮説の証明であろう。

④ 安木義忠氏に案内していただいた場所は長船町教育委員会発行文献には収録されていない。

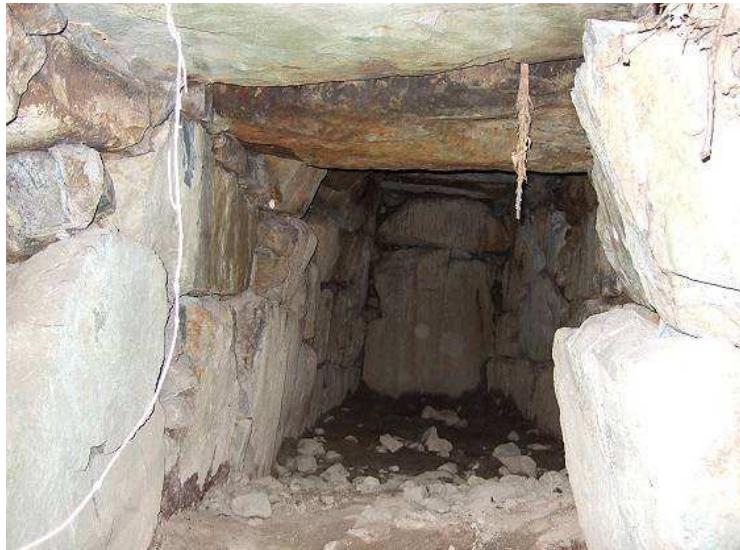
⑤ 『長船町の文化財』 平成 16 年 長船町教育委員会収録 油杉関連情報

① 堀場跡 室町時代の城跡 城主は島村某

② 油杉山古墳 墳頂部標高約 38m 5 世紀後半から 6 世紀前半頃と推測 前方後円墳

③ 油杉城跡

④ 大塚古墳群 約 16 基の古墳確認 6 世紀後半から 8 世紀前半と推測



大塚古墳

横穴石室は全長 8.3m



装飾付脚付有蓋壺(東京国立博物館蔵)

岡山県瀬戸内市長船町磯上字小笠山出土
高 31.7cm 古墳時代後期 6 世紀

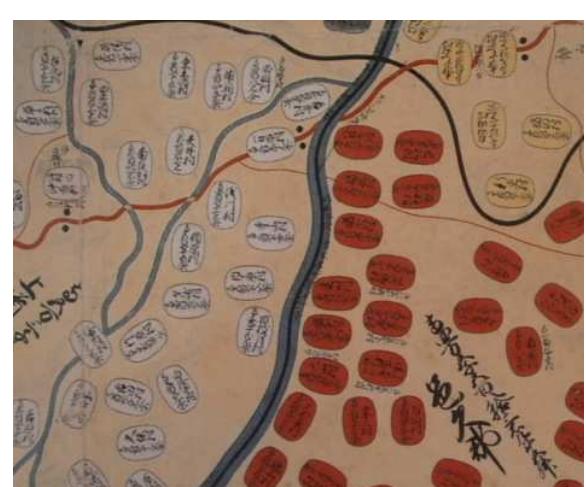
犬と動物、騎馬で狩をしている人物等が
肩に付けられている。

⑥ 『長船町歴史の散歩道』 昭和 61 年 長船町教育委員会収録 油杉関連情報

① 大塚と磯上の古墳群

② 油杉古墳と近くの遺跡

③ 磯上の湯次神社



湯次神社 備前国絵図并備前国郷帳 1700 年(元禄 13 年)池田家文書

④ 条里制の跡

8 謝辞

平成 24 年 1 月 21 日に能美洋介先生(岡山理科大学)に、1 月 25 日に武智泰史先生(倉敷市立自然史博物館)に磁性鉱物についてご指導いただいた。

9 参考文献

- ① 『長船町の文化財』 平成 16 年 長船町教育委員会
- ② 『長船町歴史の散歩道』 昭和 61 年 長船町教育委員会
- ③ 『長船町史 資料編(上)考古・古代・中世』 平成 10 年 長船町
- ④ 『長船町史 通史編』 平成 13 年 長船町
- ⑤ 『地名と人々の営み』 浦上宏 <http://miwa1929.mond.jp/index.php?FrontPage>
- ⑥ 『油杉集落の神を祀る磐坐』
<http://hach8.web.fc2.com/top-pa/15chyugoku/1503yusugi.htm>
- ⑦ 『第 220 回 瀬戸内市(邑久・長船)の磐座・社寺を訪ねて』
http://blogs.yahoo.co.jp/kibi_iwakura/archive/2011/1/16
- ⑧ 装飾付脚付有蓋壺 <http://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/C0042984>